ビ ワ 生 育 情 報

第　９　報
千葉県農林水産部
令和５年６月号

６月１日現在の果実の発育は３品種とも平年より早く、「楠」の収穫は５月中旬、「大房」と「田中」の収穫は５月下旬から始まっています。収量は前年より多いと予想されます。

１．果実の発育

６月１日現在のビワの果径を表１に示した。横径は「楠」が 4.35cm、「大房」と「田中」は３地区の平均がそれぞれ 5.21cm、4.90cm で、「楠」は平年より短く、「大房」と「田中」は平年より長かった。

縦径は「楠」が 4.51cm、「大房」と「田中」は３地区の平均がそれぞれ 5.30cm、5.47cm で、「楠」は平年より短く、「大房」と「田中」は平年より長かった。

果形指数は「楠」が 0.96、「大房」と「田中」は３地区の平均がそれぞれ 0.98、0.90 で、「大房」と「田中」は平年並み、「楠」は横長傾向であった。

着色程度は「楠」が 3.9、「大房」と「田中」は３地区の平均がそれぞれ 3.8、3.8 で、着色の進みは３品種ともに平年より早かった。

暖地園芸研究所の収穫は、「楠」は５月 18 日、「大房」は５月 22 日、「田中」は５月 29 日に始まった。本年は２月以降に平均気温が高く推移し、収穫期は平年より早くなった。

本年は１月下旬の寒波の影響により、圃場や品種によっては寒害が多く発生したものの、着花房率が平年より高く、果実は大玉傾向であり、果樹カメムシ類の被害が少ない。以上のことから、最終的な収量は前年より多いと予想される。

表１　果実の発育　（６月１日の果径）

品種	調査地	横径(cm)			縦径(cm)			果径指数			果色		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	暖地園研	4.35	4.43	4.42	4.51	4.78	4.72	0.96	0.93	0.94	3.9	3.2	3.9
大房	青木	4.99	4.97	4.84	5.13	5.13	5.13	0.97	0.97	0.94	3.8	3.2	3.9
	南無谷	5.25	5.04	5.08	5.32	5.25	5.51	0.99	0.96	0.92	3.7	3.2	3.8
	暖地園研	5.38	5.07	5.05	5.44	5.15	5.40	0.99	0.97	0.94	3.9	3.1	3.7
	平均	5.21	5.01	4.99	5.30	5.18	5.35	0.98	0.97	0.93	3.8	3.2	3.8
田中	青木	4.77	4.49	4.21	5.22	4.99	4.85	0.91	0.90	0.87	3.8	2.1	3.2
	南無谷	4.92	4.49	5.09	5.66	5.02	5.50	0.87	0.90	0.93	3.9	2.0	3.4
	暖地園研	5.00	4.56	4.65	5.53	5.03	5.13	0.90	0.91	0.91	3.7	2.1	3.0
	平均	4.90	4.51	4.65	5.47	5.00	5.16	0.90	0.90	0.90	3.8	2.0	3.2

果形指数：横径／縦径
平年：平成５年～令和４年の 30 年間の平均
南無谷は平成 10 年～令和４年の 25 年間の平均

２．令和５年５月の気象

令和５年５月の半旬別の気象を表２に示した。平均気温は第１、第２、第４、第６半旬は平年より高く、その他半旬は平年より低かった。月平均気温は 18.4℃で、平年より 0.4℃高く、前年より 0.3℃高かった。

降水量は第２、４半旬は平年より多く、その他の半旬は平年より少なかった。月合計は 145mm で平年の 89%、前年の 61%であった。

日照時間は第１、第２、第４、第５半旬は平年より多く、その他の半旬は平年より少なかった。月合計は 206 時間で平年の 110%、前年の 113%であった。

表2　令和5年5月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	平均気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（hr）		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	17.6	16.8	15.8	1	22	22	58	31	43
2	17.6	17.2	16.7	41	24	28	35	30	19
3	16.8	17.4	18.7	27	33	134	15	29	14
4	20.3	18.1	17.2	39	23	16	39	30	23
5	18.4	18.8	18.8	13	26	16	34	31	37
6	19.5	19.3	20.8	25	35	25	25	36	46
平均/計	18.4	18.0	18.1	145	163	240	206	188	183

平年：1991～2020 年の 30 年間の平均

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

３．７月の作業

７月に入り梅雨が明けると、本格的な夏を迎える。収穫後に弱っていた樹は勢いを取り戻し、夏枝の伸長が盛んになるが、根の伸びは鈍くなる。７月の作業は夏の乾燥期に向けた草刈り、刈り草敷きや、カミキリムシの防除がある。

（１）　草刈り

梅雨明け時期に園内の草刈りを行う。高温乾燥期に草を生やしておくと、草に水分がとられ、土は乾燥状態になりやすい。土が乾燥すると花着きはよくなるが、過度の乾燥は樹を弱らせる。草刈りを行い、土の乾燥防止のために刈り草は樹冠下に敷く。

（２）　カミキリムシの防除

カミキリムシはリンゴ、イチジク、クワ、ビワなどを加害する枝幹害虫で、ビワに寄生するのはクワカミキリが多い。体長は４cm 位、体は黒色地に暗黄色の短毛が密生している。幼虫は枝幹中に食入し、木質部を食べて育ち、枝の中心部を食い荒らすため、食害を受けた枝は折れやすくなり、甚だしい場合には枯死する。また、食入部の傷口からがんしゅ病が感染することがあるので、注意を要する。成虫は産卵のために、７～８月に現れるので、朝夕の活動の鈍いときに捕殺する。卵は見つけ次第つぶす。防除に際しては千葉県農作物病害虫雑草防除指針に従う。

発行：千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

【問合せ先:千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所特産果樹研究室
電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。
http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html